

長浜市地域福祉活動計画

事業報告シート

平成27年度 年間

※長浜市地域福祉活動計画事業評価シート（年間報告シート）の

内容を補足する資料です

<長浜市地域福祉活動計画事業報告シートの見方>

在宅介護者のつどい（開催回数）

1. 事業実施概要

- ・開 催 毎月1回
- ・対 象 者 在宅介護者
- ・実 施 回 数 7回
- ・延べ参加者数 116名



事業名と事業視点

事業評価シートの「目標達成状況」概要、事業詳細を書いています。

また、必要に応じて事業写真を貼付しています。

2. 事業成果および課題

- 【成果】
- ・参加者同士の交流により、介護ストレスの緩和が図られている。
 - ・定期参加する方同士のつながりができる。
 - ・様々な介護状況にある対象者に合わせて企画するため、多くの介護者が参加できる。

- 【課題】
- ・介護者のリフレッシュ機会を増やすため、毎月1回開催できるようにする。
 - ・新たな介護者や男性介護者の参加が少ないため、介護事業所等との連携・協働による介護者への呼びかけが必要である。

事業評価シートの「主な事業成果および課題」の詳細内容として、活動事業の「評価および課題」を書いています。

課題は、次年度事業に改善するように書いています。

3. 参加者・住民の評価

- ・つどいがあるから救われている。他の人の介護の話を聞いて参考になり、自分もがんばろうという力をもらっている。
- ・介護のことを近所の人には話せないが、つどいへ来ると、同じ介護者ばかりで話しやすい。
- ・参加を戸惑っていたが、勇気を出して参加してよかった。
- ・車を運転できないため、参加を諦めていたが、送迎してもらえて、参加できるのでよい。
- ・旅行には行けないと思っていたが、介護者のつどいの日帰り旅行は、デイサービスの送迎時間を考えて計画されているため、参加できてリフレッシュになるので、大変楽しみにしている。

事業評価シートの「主な参加者・住民の評価・声」の詳細内容として、活動事業に対する「参加者・住民の評価・声」を書いています。

特に強調したい評価・声には、アンダーラインを付けています。

目次

シートの見方

基本目標1 おせんどさんの地域づくり [地域の絆で安心して暮らせる地域づくり]

①地域の絆づくり

- P. 2 地区社協交流事業（地域交流事業）
- P. 3 地区社協交流事業（福祉懇談会）
- P. 4 小地域サロン支援事業（実施件数）
- P. 6 在宅介護者のつどい（開催回数）
- P. 7 しょうがい者交流事業（開催回数・参加者数）
- P. 9 多文化交流サロン（開催回数）
- P. 10 ふれあい用具貸出事業（貸出件数）
- P. 11 ふれあい備品購入助成事業（備品購入助成件数）
- P. 12 福祉出前講座（講座開催【地域福祉活動】）

②健やかな成長と自立を育む地域づくり

- P. 13 子育て支援事業【おもちゃ図書館】（開催回数・参加者数）
- P. 14 冒険遊び場支援事業（開催地区数・開催回数）
- P. 15 福祉用具・車いす車両貸出事業（貸出件数）
- P. 15 たすけあい資金貸付事業（相談件数・貸出件数・給付件数）
- P. 16 生活福祉資金貸付事業（相談件数・貸出件数・給付件数）
- P. 17 緊急食糧給付事業（相談件数・貸出件数・給付件数）
- P. 18 中山間地域支援事業
- P. 20 中山間地域支援事業【ワークキャンプ】（活動地区数・活動日数）
- P. 21 日常生活支えあい促進事業（取組み地区件数）
- P. 22 ひきこもり者等居場所づくり事業

③見守りで支えあう地域づくり

- P. 24 福祉委員支援事業（設置自治会数・率）
- P. 25 地域除雪支援事業（支援自治会数・率）
- P. 26 ふれあい電話（利用者数・実施（相談）件数）
- P. 28 地域見守り活動推進事業（取組み活動支援自治会数・率、啓発活動・研修会等の開催）
- P. 29 歳末たすけあい運動（実施件数）
- P. 30 総合相談・よろず相談事業（相談件数）
- P. 30 権利擁護センター事業（後見牒[®]-トセウ-事業）（相談援助件数・権利擁護利用者数、支援回数）

基本目標2 だしかいなの人づくり [お互いさまの関係づくり]

①参加と交流を育む環境づくり

- P. 34 福祉教育推進事業（実施件数）
- P. 35 福祉出前講座（講座開催【技能習得】）
- P. 36 ボランティア養成講座（開催数・受講者数）
- P. 37 広報啓発事業（発行回数）
- P. 39 社会福祉大会（参加者数）

②ともに支えあい頑張りあえる仲間づくり（団体）

- P. 40 福祉団体活動助成事業（支援事業数）
- P. 41 災害支援ネットワーク事業（活動実施回数）
- P. 42 ボランティア団体支援（登録支援団体数）
- P. 43 ボランティア連絡協議会支援（事業開催回数）
- P. 44 長浜市福祉バス（福祉バス貸出回数）

③やりがい・楽しみをもって頑張りあえる自分（人）づくり

- P. 44 地区社協研修事業（研修会等開催回数）
- P. 45 福祉委員推進事業（研修会等開催回数）
- P. 45 小地域サロン支援事業（開催回数）
- P. 47 しょうがい（児）者交流事業（ボランティア活動者数【延べ人数】）
- P. 48 子育て支援事業【おもちゃ図書館】（ボランティア活動者数【延べ人数】）
- P. 49 中山間地域支援事業【ワークキャンプ】（ボランティア活動者数【延べ人数】）
- P. 50 福祉教育推進事業（受講者数）
- P. 51 ボランティアコーディネート業務（件数）

基本目標3 ねんごろな根太づくり [支えあって、安心して暮らせるしくみづくり]

①気楽に相談できる関係・環境・意識づくり

- P. 54 福祉・生活相談窓口の運営（設置数【福祉生活相談・よろず相談】）
- P. 54 生活相談員の設置（設置数）

②気になる人を支えられる関係づくり

- P. 55 地域見守り活動推進事業（個別支援計画策定件数）
- P. 56 地域・介護連携会議（開催回数）

③協働と参画による地域づくり

- P. 57 地区別地域福祉推進事業【地域ケア会議】（地区活動計画策定数・率）
- P. 58 災害ボランティアセンターの機能強化（ボランティア数・訓練回数）
- P. 59 地域福祉コーディネーターの配置（設置数・研修会数）

基本目標 1 **おせんどさんの地域づくり**
〔地域の絆で安心して暮らせる地域づくり〕

地区社協交流事業（地域交流事業）

1. 事業実施概要

各地区で実施される、様々な地域交流活動や事業の支援をしています。

●主な地区社協事業

地域交流事業（福祉のつどい、は～とらんど、チャリティーバザー等）

世代間交流事業（魚つかみ大会、伝統芸術鑑賞、グランドゴルフ大会、家族ふれあい活動等）

高齢者支援事業（友愛訪問、ひとり暮らし高齢者ふれあい会、ふれあいサロン等）

児童支援事業（子ども体験教室、ちびっこ広場、図書（絵本）の配布、子育てサロン
放課後児童クラブ等）

しょうがい支援事業（しょうがい児交流事業等）

男性支援事業（男の料理教室、男性活動支援事業等）

介護者支援事業（介護者サロン等）

広報啓発事業（広報紙発行等）

総事業数：135事業（平成26年度：131事業）

参加者数：24,211人（平成26年度：15,289人）



2. 事業評価および課題

【成果】

- 地域の福祉課題等に応じた活動が展開されることで、交流が活性化しコミュニティの形成と継続が推進されている。
- 地区社協（福祉の会）をはじめ、地域づくり協議会やNPO、赤十字奉仕団など様々な団体の協働と連携により地域のふれあいと交流の活性化が図られている。

【課題】

- 活動マンネリ化等による参加者の固定化が見られる活動もあり、内容や周知方法の改善が求められる。

3. 参加者・住民の評価・声

- イベントに参加して、はじめて福祉の会と地域づくり協議会の活動を知りました、これからは意識して会の活動に参加や応援をしたいと思います。（子育て支援事業に参加した母親）
- 「自分たちの地域を自分たちで良くしたい」という思いをカタチに出来るのが地区社協のつよみです（地区社協役員）

- 毎年、交流会が開催されることを楽しみにしています。(ひとり暮らし高齢者のつどい参加者)
- 地域の中にお友達をつくることができ良かったです。(子育てサロン参加者)
- 今はまさに「ふれあいや交流」といった活動が必要になっている時代だと思います、今後も安心して暮らせる地域でありつづけられるよう、こういった交流活動を続けていきたいです。
(地区社協役員)
- まずは人とつながることが、外に足を向ける第一歩だと思います。そんな機会を少しでも増やしていきたいですね(民生委員児童委員)

地区社協交流事業(福祉懇談会)

1. 事業実施概要

- 実施地区数 市内15地区(地区社会福祉協議会(福祉の会)単位)
- 目的 地区別福祉活動計画と連動し、市内15地区の地域課題や今後の地域展望・方向性等を話しあうため、福祉懇談会を開催し、課題解決に向けた計画や、新たな取り組みにつなげる。
- 内容 福祉懇談会の開催
- 開催回数 55回
- 参加人数 967人

2. 事業評価および課題

【成果】

- 市内全地区で地区の地域福祉活動計画が策定されている。
- 生活課題や地域課題、これからの活動の方向性や目標など、それぞれの地域実情に合わせたきめ細やかな協議や検討が進められている。

3. 参加者・住民の評価・声

- ひとりではできる事も限られますが、みんなで話しあえば新たなアイデアも出てくるし、やる気も出てくるのでいい機会です。(福祉懇談会参加者)
- 地区内で様々な立場で活動されている人たちが話しあう場を設けられているので、自分自身の勉強にもなりました、また、自分たちが持っている思いも共有することができたので、今後の活動の連携に活かしていきたいです。(福祉懇談会参加者)

小地域サロン支援事業（実施件数）

1. 事業実施概要

開催数：サロン総数	175件
（内訳） 新規サロン開催自治会数	12件
2年目サロン開催自治会数	11件
3年目サロン開催自治会数	8件
4年目以降サロン開催自治会数	144件



新規サロン取組が12団体であるが、サロン総数の数は10サロンの増加である。これは、2年目・3年目のサロン申請が1サロンずつ申請をされなかったことで、2サロンの差異がある。

サロン参加者：

25年度	26,758人
26年度	31,785人
27年度	36,105人

開催場所：自治会館等

開催時間：各サロンにて決定（午前・午後・1日）

支援内容：助成金（175団体）

サロンの情報紙の発行

（年4回、サロン代表者宅に郵送）

情報交換会（28年2月22・25・29日の3日間開催）

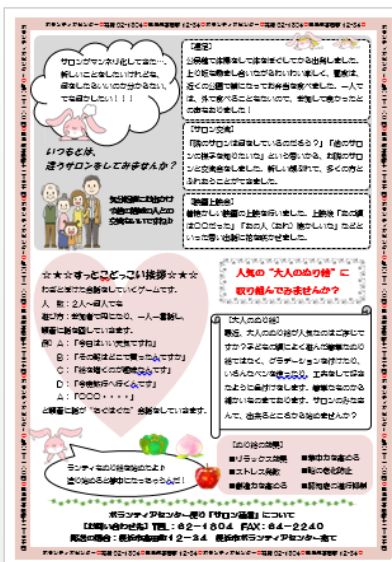
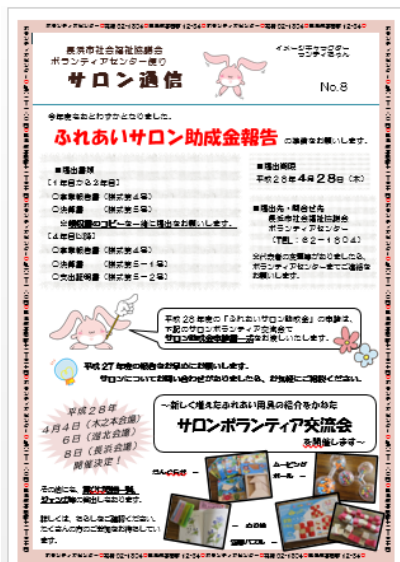
貸出備品、ボランティアの派遣等

サロン出前講座(回想法・サロンについて)

13回

地区社会福祉協議会主催でサロン交流会においてコミュニケーションマーチャンを紹介

6地区社会福祉協議会(南郷里・浅井・虎姫・びわ・高月・余呉)



2. 事業成果および課題

【成果】

- ・サロン活動をとおして、地域の顔の見える関係づくりができ、参加者同士の信頼関係が密になった。
- ・高齢者がサロンに参加することで閉じこもり防止など、介護予防につながっている。
- ・毎月1回から4回サロンを定期的を開催されることで、生活の一部となり健康づくりにつながっている。
- ・立ち上げ支援として、自治会の相談、自治会の住民の方(役員)の方の説明にも出向くことで自治会として取り組みにつながった。
- ・サロンは、地区社協や自治会、地域のボランティア、民生委員、福祉委員中心で運営されており、民生委員の方が見守り活動としてサロンに参加し、また運営されているところもある。その話を聞いた民生委員の方がサロンに興味をもち、立ち上げやサロンに関わりにつながった。
- ・情報紙等で、参加者満足度の高い取り組み、活動の紹介を行うことで、参加される方が楽しかったと思えるようなサロン活動の充実が図られている。
- ・26年度に、交流会において簡単で楽しい遊び方のコミュニケーションマーチャンを紹介したことで、マーチャンを知らない女性も楽しんで参加され、またマーチャンということで男性の参加するきっかけにつながった。
- ・地区社協との連携・協働によりサロン研修会・情報交換会を開催しコミュニケーションマーチャンの普及・啓発活動の推進により、貸出回数も増えサロンの活動内容も充実した

【課題】

- ・サロン未設置の自治会へのサロン取組の周知を進めていく。
- ・サロンが開催されていても、開催数が少ない自治会への周知を行っていく事も必要である。

3. 参加者・住民の評価・声

- ・サロンに参加してサロン外の付き合い方も広がり、あいさつや立ち話をするようになった。(サロン参加者)
- ・サロン交流会で他のサロンの方と交流しサロンのヒントをもらいました。(サロン運営者)
- ・コミュニケーションマーチャンを出前講座にて来てもらいサロン参加者で行い、男性にも女性も人気があり、また麻雀したいとの声を聞きスタッフも喜んでいます。(サロン運営者)
- ・交流会でコグニサイズ(リズム体操)を学び、サロンでみんなで行うと時間があっという間に過ぎてしまいます。(サロン参加者：男性)
- ・体調が少し悪くても、サロンに行きたいとおもうくらい楽しみにしています。(サロン参加者)
- ・近所にサロンがあってよかった(サロン参加者)

在宅介護者のつどい（開催回数）

1. 事業実施概要

- ・開 催 毎月1回
- ・対 象 者 在宅介護者
- ・実 施 回 数 12回
- ・延べ参加者数 146名

2. 事業成果および課題

【成果】

- ・参加者同士の交流により介護者の情報交換や気分転換につながっている。
- ・定期的につどいが開催されることで、介護者の外出の機会が持て心身のリフレッシュになる。
- ・つどいの内容等に参加者の意見を取り入れることで参加者の楽しみの場が出来る。

【課題】

- ・新規の参加者が少なく、参加者が固定化しつつあるためつどいの幅広い周知が必要。

3. 参加者・住民の評価・声

- ・皆さんと交流を通じて、介護の考え方や方法、知識を語り合いたいです。そのうちに馴染みが出てきます。（参加者）
- ・季節に応じた内容で気分転換できたので、在宅介護中のお友達にもおすすめしたいです。（参加者）
- ・講演会、懇親会、遠出外出、食事会等どれも良かったです。継続して実施して欲しいです。（参加者）
- ・参加して、どれも良かったです。ありがとうございます。（参加者）



しょうがい者交流事業（開催回数・参加者数）

1. 事業実施概要

- 療育レクリエーション（1回 109人）
- しょうがい児者保護者交流会
 - ・ほのぼのかけはし（5回 50人）
 - ・サマーハウスの開催（5回 204人）
- しょうがい者余暇支援事業料理サロンの開催（11回 148人）
- 元気クラブ（21回 428人）

2. 事業成果および課題

【成果】

- ・行事を通じて参加者が地域とのつながりを深め、余暇の充実を図ることができている。
- ・しょうがい児者およびその家族の勉強会や余暇活動を通じ、日ごろの悩みや不安などの軽減を目指すことで、居場所づくりや生きがいづくりにつながっている。
- ・参加者と一緒に事業内容を企画することにより、参加意識の向上につながっている。
- ・親子（家族）での参加を原則とすることにより、親子での楽しい夏休みの思い出づくりにつながっている。（サマーハウス）
- ・同じ場所でするのではなく、いろんな場所ですることにより、参加しやすくしている。
- ・行事の中で、電車の乗り方や、買い物の仕方などを学ぶ機会があるため、生活の中で自然とできることが増えている。

【課題】

- ・交流事業への参加にむすびつかない方の参加向上。
- ・悩み等を相談できる関係づくりを進める取り組みが必要である。

3. 参加者・住民の評価・声

- ・親子で出かける機会があまりないので、子どもとともに毎年楽しみにしています。
（療育レクリエーション参加者）
- ・事業に参加したことで、子育てする上での悩みや不安を共有できるママ友ができて心強いです。
（ほのぼのかけはし参加の保護者）
- ・悩みや不安・愚痴などを同じ目線で共有し合う場がないので、開催が待ち遠しいです。
（ほのぼのかけはし参加の保護者）
- ・しょうがいに関する勉強会も大切ですが、進学や就職等子どもの将来に関して皆で考える機会も欲しいです。（ほのぼのかけはし参加の保護者）
- ・子どもたちの面倒を見てもらえるので、息抜きする時間が持てました。子どもたちも、夏休みに友達と会えて嬉しそうです。くたくたになるまで遊び、笑顔も増えました。
（サマーハウス参加の保護者）
- ・様々なお子さんと出会い、自分の子どもが抱えるしょうがい以外の勉強もしようと思う良い機会となりました。（サマーハウス・ほのぼのかけはし参加の保護者）

- 事業に興味があり、参加しようか悩んでいたところ、子どもと同じ学校の保護者に誘われて一緒に参加しました。交流の幅が広がり、参加してよかったです。(サマーハウス・ほのぼのかけはし参加の保護者)
- 保護者の話しをお伺いしていると、勉強会や交流の場を必要としていることがわかりました。(ほのぼのかけはし講師)
- 皆で料理し一緒に食べると、いつもよりおいしく感じます。なので、サロンに行くのが楽しみです。(料理サロン参加者)
- 子どもが料理サロンで学んだ料理を作ろうとしてくれます。家事も積極的に手伝ってくれるようになり、子どもの成長がうかがえます。(料理サロン参加者の保護者)
- 電車の切符を買い、乗り継ぎの仕方を学べたので次は一人で出かけたいと思います。(元気クラブ参加者)
- 自分たちで企画を考え参加することにより、やりがいを感じている。(元気クラブ参加者)

多文化交流サロン（開催回数）

1. 事業実施概要

開 催：毎月1回（都合の合う日曜日）

対 象 者：市内在住の他国出身の方

実 施 回 数： 11回

延べ参加者数： 188名

実 施 内 容：調理実習等

（参加者と内容を決めて実施）



2. 事業成果および課題

【成果】

- ・参加者同士の絆が深まることで、サロンの場が相談し合える場となり、ささえあいの関係が構築されてきている。
- ・サロンの活動や内容に対して意見や希望を言い合える関係ができ、主体的な運営につながってきている
- ・情報交換を、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)等で行い、仲間づくりやつながりが日常的に深める関係づくりができています。
- ・参加者から「ケーキの作り方を教えて」、「ひじきの煮物教えて」「安価な物で簡単な料理」等と要望があり、参加者の交流や学びの場の役割も担っている。
- ・サロンでつながることで、地域から声がかかり「春節祭」を行うことができ多く人と出会い、とても楽しかったので、今後は自分達で計画を立てたいと夢を持っている。
- ・サロンに参加することで、普段の生活においてお互いに助け合いの関係が深まってきた。

【課題】

- ・サロンに多くのスタッフがかかわることで、より良い国際交流につながっていくと考えられる。

3. 参加者・住民の評価・声

- ・サロンに参加すると母国語で話せてうれしいです。（参加者）
- ・サロンで知り合い、地域の事業にも参加できてうれしかった。（参加者）
- ・子どもが大きくなって、サロンに参加ができにくい時がありますが、参加できる時は楽しみにして参加しています。（参加者）
- ・日本の料理を教えてもらう機会がないのでうれしいです。（参加者）
- ・ここに来ると、いろんな事を話せて相談にのってもらいうれしいです。（参加者）

ふれあい用具貸出事業（貸出件数）

1. 事業実施概要

自治会等の交流活動など地域福祉活動に使用されるレクリエーション道具を貸出しています。

●調理器具	378件
●イベント・レクリエーション用具	878件
●教材（プロジェクター等）	180件
合計	1,436件

2. 事業成果および課題

【成果】

- 用具の貸出しにより地域交流イベントが活性化し、ふれあいと交流の機会づくりにつながっている。
- サロン活動等に利用しやすいレクリエーション物品の整備が進められ貸出件数が伸びている。

【課題】

- 大型調理器具（ポップコーン機、綿菓子機等）の老朽化や故障等により貸出件数の減少が見られるため、故障対応や機器の更新による安定した貸出事業の継続が求められている。

3. 参加者・住民の評価・声

- 様々な用具があり、自治会の交流イベントがマンネリ化することなく、みんなに楽しんでもらうことができています。（自治会役員）
- 無料の貸し出しのため、サロンや老人会などでも気軽に借りることができてありがたいです。（サロンスタッフ）



ふれあい備品購入助成事業（備品購入助成件数）

1. 事業実施概要

- 助 成 額・・・50,000円以内（購入費総額の2/3以内）
- 主な助成備品・・・プロジェクター、スクリーン、立ち上がりやすいイス、液晶テレビ、粉末消火器、消火ホース、手すり取り付け、ノート型パソコンなど
- 財 源・・・共同募金（地域配分金）
- 助 成 件 数・・・16自治会



2. 事業成果および課題

【成果】

- ・地域のニーズに応じた備品を自治会が自ら整備することで、地域のふれあい・交流活動が促進された。

3. 参加者・住民の評価・声

- ・サロン参加者に足腰の不調を訴える方が多かったので、パイプイスを購入したところ、参加者が増えました。（自治会長）
- ・自治会館に手すりを設置したことで、自治会館に来にくかった住民も集まりやすくなりました。（自治会長）
- ・自治会のイベントやサロンに使用するため、プロジェクターとスクリーンを購入しました。議資料の投映や、映画を上映できるようになり、自治会館が幅広い年代の住民が集う憩い場になりました。（自治会長）
- ・ノートパソコンの購入により、自治会の情報管理が楽になりました。自治会の広報紙作成に役立てます。（自治会長）
- ・購入したホワイトボードは公民館にて自治会行事、サロン、子供会、老人会等、会議、レクレーションの手段として活用します。（自治会長）
- ・高齢化に伴い各家庭での火器の扱いリスクが高まっている中、既存の防火機器は老朽化し火災に対応しきれない状態になっているため助成を利用し新たに購入しました。（自治会長）

福祉出前講座（講座開催【地域福祉活動】）

1. 事業実施概要

講座名	件数
HUG～避難所運営ゲーム～	8
防災ゲーム「クロスロード」	2
いざめし	6
見守り活動のススメ	9
地域福祉権利擁護事業とは	6
回想法講座	9
高齢者疑似体験	6
災害ボランティアセンター	2
ボランティア入門講座	9
地域でサロンをしよう！	8
リクエスト講座	14



2. 事業成果および課題

【成果】

- ・自治会やサロンなど、地域の身近なところで福祉活動に対する関心を高める取り組みが広がっている。
- ・リクエストにより地域の要望に柔軟に応じることで、学びの効果を高めるとともに地域課題に対応することができている。

【課題】

- ・地域課題やニーズに応じたプログラムの開発が求められる。

3. 参加者・住民の評価・声

- ・身近な場所で、近所の方とともに福祉について学習する機会があり、意識が変わった。
（一般参加者）
- ・権利擁護の日頃の行政手続きや金銭管理など、どんなサポートをしてもらえるのか具体例を交えて紹介してもらいわかりやすかった。（民生委員児童委員）
- ・災害時を想定した HUG をすることで、平常時から自治会で避難支援等について考えるきっかけとなった。（自主防災組織）
- ・回想法について知ることができ、サロンで皆さんと一緒に楽しめました。（サロンスタッフ）
- ・出前講座は気軽に申し込みができるので、今の情勢にあった地域福祉について自治会で学ぶ機会ができている。（自治会役員）
- ・講座内容も細かく打ち合わせができるので、希望の内容でのリクエストができました。

子育て支援事業【おもちゃ図書館】（開催回数・参加者数）

1. 事業実施概要

- ・実施回数：78回

（虎姫会場） 毎月第2・3水曜日
9時30分～11時30分

（木之本会場） 毎週火曜日
9時30分～11時30分

- ・対象者：未就学児とその保護者
- ・延べ参加者数：611人



2. 事業成果および課題

【成果】

- ・保護者同士の交流により、育児に対するストレスの軽減と情報交換や仲間づくりを図ることができている。
- ・子育て支援センター等専門機関との連携による啓発活動を行うなど、幅広い地域で参加者増加に向けた取り組みが進められている。
- ・地区社協をはじめとする福祉団体の協力を得て、地域ぐるみの活動が進められている。
- ・季節を感じる（夏祭りやクリスマス等）の参加が特に多く、長浜市全域からの参加があり、広報紙やチラシ、保護者同士の情報交換による周知が図られている。

【課題】

- ・中間報告時と比べると通常開催日の参加者は増えてはきたが、微々たるものであり、周知方法とフリースペースとしての魅力を再度検討する必要がある。

3. 参加者・住民の評価・声

- ・他県から転居してきたので、知り合いもおらず不安いっぱいの中子育てしていました。勇気を出して参加したところ、同じ境遇のママさんと知り合うことができ、今では誘い合って参加しています。
- ・同じ団地に同世代の子どもがいないので、子どもの友達づくりも兼ねて参加しました。友達もたくさんでき、子どもも私も楽しみにしています。
- ・ボランティアさんが作ってくださる美味しいおやつを楽しみにしています。祖父母と同居していないので、子どももボランティアさんのことを本当の祖父母のように慕っています。

冒険遊び場支援事業（開催地区数・開催回数）

1. 事業実施概要

- 開催回数 ながはま冒険遊び場 1回
 1日冒険遊び場 5回
- 新規立ち上げ相談・支援回数 3件
 ※NPO 法人で取り組まれる活動の相談
 と立ち上げワークショップの開催
- 子育てで地域の魅力づくり研修会 22名
- 冒険遊び場づくり講座 29名



2. 事業成果および課題

【成果】

- ・地域イベントの中で冒険あそび場活動が取り入れられることで冒険遊び場活動の理解と関心が高まっている。
- ・NPO 団体などによる新たな冒険遊び場の開設準備が進んでいる。
- ・講座の開催により、地域の諸団体の活動への関心が高まっている。

【課題】

- ・子ども自身で活動に参加できるよう、学区や自治会といった小地域での開催にむけた活動啓発と立ち上げ支援が必要である。

3. 参加者・住民の評価・声

- ・子どもと一緒に外で遊ぶことができ良かった。（参加者の保護者）
- ・自分の地域で冒険遊び場をやってみたい。（参加者の保護者）
- ・冒険遊び場を立ち上げたら、子どもの頃の遊びを今の子どもたちに教えてあげたい。
（ワークショップ参加者）
- ・いずれ、冒険遊び場を森の中に作りたいと思っています。（冒険遊び場づくり講座参加者）
- ・地域の中に冒険遊び場が出来るように、地域の人に呼びかけていきたいです。
（冒険遊び場づくり講座参加者）

福祉用具・車いす車両貸出事業（貸出件数）

1. 事業実施概要

高齢者やしょうがい者の外出を促進するための車いす車両や在宅での生活を向上させるための車いすの貸出しを実施しています。

- 福祉用具 323件
- 車いす車両 164件



2. 事業成果および課題

【成果】

- ・福祉用具を必要としている方の外出を促すことで、地域や他者との交流が促進されている。

3. 参加者・住民の評価・声

- ・車いすが急に必要になった時に対応してもらえて助かりました。（高齢者家族）
- ・車いす車両のおかげで家族と外出できて、旅行を諦めていた祖父がとても喜んでいました。（車いすを使用している高齢者）

たすけあい資金貸付事業（相談件数・貸出件数・給付件数）

1. 事業実施概要

- ・貸付件数 56件

2. 事業成果および課題

【成果】

- ・生活保護や債務整理、税金や公共料金の滞納整理など関係機関の他制度につなぐまでの一時的な生活の安定が図れている。

【課題】

- ・生活困窮者自立支援法の施行による行政機関等とのさらなる連携強化のあり方を検討する必要がある。

3. 参加者・住民の評価・声

- ・少ない収入をやりくりする中、家電製品の故障等による修理・買い替えなどの緊急時に貸付の利用ができてたすかりました。（貸付利用者）
- ・貸付を受けられたことを聞き、地域で必要に応じて見守りをしていかなければいけないと思っています。（民生委員児童委員）

生活福祉資金貸付事業（相談件数・貸出件数・給付件数）

1. 事業実施概要

- ・貸付件数 総合支援資金 12件
福祉資金・教育支援資金 57件
合 計 69件

2. 事業成果および課題

【成果】

- ・就労意欲のある方の自立に向けた貸付や低所得世帯の就学資金の貸付による支援がしっかり行えてる。また、貸付け相談を受けている中で、多重債務などの他の生活課題もある世帯に対し、関係機関と連携により、当該世帯の課題解決が図れるような対応ができています。

【課題】

- ・社会保障制度の利用ができない相談者に対する自立に向けた支援体制を強化・構築する必要がある。

3. 参加者・住民の評価・声

- ・子どもの大学の入学金や授業料などがかなり高額で賄えないなか、教育資金の貸付けが利用できて助かっています。（貸付利用者）
- ・求職活動中の生活費に困っていたが、総合支援資金の貸し付けを受けたことで、就職まで至り、非常に助かった。（貸付利用者）
- ・生活困窮者の救済として、住宅確保給付金以外の施策として利用いただけたことで、自立に向けたプランがたてられた（行政）

緊急食糧給付事業（相談件数・貸出件数・給付件数）

1. 事業実施概要

- ・緊急食糧給付件数 48件
- ・調理器具貸与件数 3件



2. 事業成果および課題

【成果】

- ・緊急一時的な生活困窮世帯に食料品を給付することで、生活の維持が図られている。
- ・ライフラインが止まった世帯に対する調理器具（ガス・IH調理器）の貸与により、ライフラインの確保がなされている。

【課題】

- ・生活困窮者自立支援法の施行によるさらなる行政機関等との連携強化のあり方を検討する必要がある。

3. 参加者・住民の評価・声

- ・生活困窮世帯への緊急一時的な食料品給付があることで、公的制度の利用までのつなぎができました。（民生委員児童委員）

中山間地支援事業

1. 事業実施概要

①生きがいづくり教室

- 開催日時：毎週木曜日午前10時～正午
- 実施回数：35回
- 延べ参加者数：345名
- 内容：そば打ち、健康教室、小物づくり教室 等

②地域カフェ ほっこり茶屋

- 開設日時：毎週木曜日午前10時～午後3時
- 開設日数：38日
- 延べ利用者数：1,058名（内親子 延べ152組）

③中山間地域福祉活動フォーラムの開催 H28.2.14 開催 参加者数 111名

④生活支援ボランティア活動の育成支援

元気かい活動支援 ・ 活動助成金交付 ・ 活動啓発支援 ・ 活動備品の貸出



2. 事業成果および課題

【成果】

- ・高齢者を中心に地域住民の居場所づくりによる交流増進と仲間づくりが図られている。
- ・世代間交流の場として活動が広がっている。
- ・生きがいづくり教室について、関心の高い調理活動を取り入れることによって、いろんな世代の参加者が増えた。
- ・主任児童委員の協力により、子育て中のママが生きがいづくり教室に参加できるようになった。

【課題】

- ・生きがいづくり教室については、内容を変えることにより一部改善されたが、まだまだ参加者が少ないので、今後も関心の高い活動が求められる。

3. 参加者・住民の評価・声

- ・ほっこり茶屋で友達とゆっくりとお喋りできるのがうれしいです。（カフェ利用者）
- ・コーヒーが好きなので、近くにゆっくりと飲める場所ができてよかった。（カフェ利用者）
- ・ここは小さなお子さん連れのお母さんも来ているので、子どもの元気な姿をみて元気をもらっています。（カフェ利用者）
- ・おいしいと言って私が入れたコーヒーを飲んでいただけるとうれしいです。

(カフェボランティア)

- いつも健康のことを気にして暮らしています。毎月健康教室があるのがありがたいです。

(生きがいづくり教室参加者)

- 主人を亡くし落ち込んでいる時に、ほっこり茶屋に来ておしゃべりしていると心が落ち着いて癒されました。(カフェ利用者)
- 仲間と健康麻雀を楽しんでいます。コーヒーも飲み、(つつじ作業所の)パンも食べながらできるので、よい場所です。(カフェ利用者)
- ここへ来ると、同じ未就園児を連れてきたママ達と悩みを相談したり、いろいろな情報交換ができるのでうれしいです。(子育て中の母親)
- 孫と一緒にいちご大福作り教室に参加できてよかった。(生きがいづくり教室参加者)
- 子どもと一緒にだとなかなか講座に参加することができないと思っていたが、ほっこり茶屋では主任児童委員さんがめんどうをみてくれるので、参加できるようになった。(子育て中の母親)

中山間地域支援事業【ワークキャンプ】（活動地区数・活動日数）

1. 事業実施概要

実施場所：長浜市余呉町 摺墨自治会、中河内自治会、菅並自治会 3地区

高齢化率：摺墨（50.0%）中河内（74.2%）菅並（76.6%）

●第1回ワークキャンプ（夏季）

実施期間：9月8日（火）～11日（金） 3泊4日（作業日数4日間）

実施内容：側溝の土砂上げ、水路の土砂上げ

参加者：ボランティア55名 交流会11名 延名66名

※9月9日のワークは台風の為、余呉高齢者福祉センターでの作業に変更。

●第2回ワークキャンプ（冬季）

実施期間：2月8日（月）～11日（木）3泊4日（作業日数3日間）

実施内容：高齢者宅の除雪、側溝の土砂上げ



2. 事業成果および課題

【成果】

- ・高齢化が進み、自治会役員だけでは対応しきれない地域課題を地元住民と大学生ボランティア等が作業（ワーク）を通して解決に向けた取り組みが進められた。

【課題】

- ・新たな地域の拡充については、高齢化率が高くても地元住民で出来る作業なので自治会で対応されており、受け入れが困難であった。事業に対する周知やニーズ把握の取り組みが必要である。

3. 参加者・住民の評価・声

- ・何年も作業ができていなかったが、学生ボランティアさんのおかげで取り組むことができた。ぜひ来年も来てほしい。（地域住民）
- ・ボランティア活動を通して、田舎のイメージと現実と大きく違い、地元住民さんの助けになったことが嬉しかったです。（学生ボランティア）
- ・過疎化が進んでいる現状を知り、その地域を若い自分たちが積極的に支援していくことが大切だと感じました。（学生ボランティア）

日常生活支えあい促進事業（取組み地区件数）

1. 事業実施概要

●活動団体支援

■神田地区 かんだサポート会

清掃作業	25回
お買い物ツアー	12回
庭木の手入れ	7回
草刈（除草）	1回
その他	2回

■余呉地区 元気かい

畑の支援	14回
草刈り	16回
清掃	1回
降雪対策準備	2回
ゴミ捨て	1回
精米	1回
除雪支援	1回
買い物支援	8回



●支援内容

■活動費の助成：元気かい 50,000円

■活動用具の貸与：かんだサポート会 刈り払い機1台、ヘッジトリマー1台
余呉元気かい 草刈り機1台

■送迎車両貸出：かんだサポート会、余呉元気かい 買物ツアー運行に車両貸出

■活動周知支援：かんだサポート会 余呉元気かい 活動周知用チラシ

■活動保険加入支援：かんだサポート会、余呉元気かい 福祉サービス総合補償加入支援

2. 事業成果および課題

【成果】

- 生活支援ボランティア活動団体の取組みが充実され、生活課題を抱えても自立した生活が続けられる地域づくりの推進が図られている。
- 生活支援活動に対する住民の理解が進むことで、ボランティア活動の活性化が見られる。
- 未実施地区においても、研修会や意見交換を行う事で、地区ごとの生活課題の把握や解決に向けた取組みなどの検討が進められている。高月地区や虎姫地区などでも、生活支援活動について、地区の方向性や具体的活動の検討が行われている。

【課題】

- さらに多くの地域住民に対し、生活支援ボランティア活動の必要性の理解を進める取組みが必要である。
- 新たな地区での生活支援ボランティア活動団体の立上げが求められる。

3. 主な参加者・住民の評価・声

- ボランティアさんが「ここだけ手伝ってほしい」という作業をしてくれるので、あとは自分で畑の維持をすることができてありがたいです。（畑作業を依頼したひとり暮らし高齢者）
- バスで買い物に行くと行き来に時間がかかり、生ものや重いものは買えないが、買い物ツアー

のときは何でも気にせず買うことができうれしい。(買い物ツアーに参加した高齢者)

- ・作業を頼むと顔見知りの方が来てくれる。安心して頼むことができる。(作業を依頼した高齢者)
- ・商品を自分の目で見て、手に取って選んで買い物が見たいので、連れて行ってもらえてうれしいです。(買い物ツアーに参加した高齢者)
- ・まだまだ地域のために住民のためにできることがあると思います。活動回数を増やす、活動内容の幅を広げていくなど検討していきたいです。(ボランティア活動者)
- ・以前より出ていた住民の困りごとを解決できるよう、神田や余呉の活動から学び、自分たちの支援の仕組みを作っていきたいです。(日常生活支援について検討している地区住民)
- ・自分たちの地域は、自分たちの手でなんとか守っていきたい、そのためにも、神田や余呉の活動を参考にしたいです。(日常生活支援について検討している地区住民)

ひきこもり者等居場所づくり事業（居場所参加者人数）

1. 事業実施概要

不登校者、ひきこもり者等が人と交流するための支援として、ひとりひとりの様子に合わせた過ごしやすい居場所づくりや、自分を見つめる機会と時間をもつことで自立した生活へつながること、また、当事者同士の交流による支えあいの広がりを目指して実施しています。

加えて、当事者家族同士のつながりづくりと情報交換の場としての役割も担っていきます。

居場所延べ参加者：当事者 42名、家族 74名



2. 事業成果および課題

【成果】

- ・居場所づくりをとおして、ひきこもり当事者の社会参加促進と交流の機会づくりができています。
- ・ひきこもり当事者だけでなく、家族間のつながりや情報交換といった家族への支援活動が取り組まれている。
- ・家族の会をとおして、長浜市民以外の参加も見受けられる等活動の輪が広がっている。

【課題】

- ・民生委員児童委員および専門機関等との連携による対象者の把握や居場所づくり等へのつなぎの支援が求められる。
- ・ひきこもりに対する地域住民の理解と関心を高められる地域の雰囲気づくりの促進が求められている。

3. 主な参加者・住民の評価・声

- ・月に一回でも外出の機会があると「世の中とつながっている」と思えて気が楽になります。
(ひきこもり当事者)
- ・ゲームやレクリエーションのおかげで、他の人とも話すことができました。

(ひきこもり当事者)

- ここでは名前や住所などの個人情報を使う必要がないので、本当に気が楽です。

(ひきこもり当事者)

- えんかふぁは、「わたしが居てもいいんだ」と思える場所です。(ひきこもり当事者)
- 家族以外の人と話す機会があるおかげで、家での本人の様子も少し変わってきました。

(ひきこもり者家族)

- 本人だけでなく、家族も一緒に過ごすことができるので、安心して参加することができています。(ひきこもり者家族)
- 同じ立場にある家族の方をお話できるので、心から安心して相談できています。

(ひきこもり者家族)

- えんかふぁでの出来事を話してくれるようになり、少しずつですが家族の会話が増えてきたので嬉しく思っています。(ひきこもり者家族)
- 「ひきこもりは本人や家族に問題があるのではなく、社会の変化が大きな要因である」という話を聞き、ひきこもりに対する考え方が変わりました。

(ひきこもりに関する研修会参加者)

- 今までではひきこもり当事者や家族のつながりづくりが無かったが、外出や交流の機会のおかげで、声かけや支援がスムーズになりました。(保健師)
- 当事者とその家族が一緒に過ごすということに驚きましたが、そのほうが当事者も落ち着いている様子が見受けられ安心しました。(保健師)

福祉委員支援事業（設置自治会数・率）

1. 事業実施概要

- 福祉委員設置自治会数
203自治会／426自治会
(47.6%)
- 福祉委員活動に関わる相談、支援数
397名（自治会、団体、地区）
- 地域福祉サポーター養成講座の実施



2. 事業成果および課題

【成果】

- ・福祉委員がサロン活動や見守りの活動を行うことで、地域住民主体の地域づくりが促進されている。
- ・地域の研修会や情報共有の機会をつくることで、福祉委員活動の充実や設置の推進が図られている。

【課題】

- ・民生委員児童委員など地域の福祉関係者と連携できる機会を増やしていく。
- ・活動年数別の研修プログラムを実施するなど、福祉委員活動のさらなる充実の検討が必要である。

3. 参加者・住民の評価・声

- ・福祉委員に任命されたが何をしていたかわからなかったため、養成講座に参加しました。講座に参加していた他地区の福祉委員さんと交流したり、地域福祉コーディネーターと相談していく中で、職務に対して気楽に向き合えるようになり、肩の力が抜けました。（福祉委員）
- ・福祉委員制度を導入したいと考え、福祉委員に興味を持つ住民の方と一緒に養成講座に参加しました。地域福祉コーディネーターと相談しながら導入に向けて動いていきます！（地区社協会長）
- ・自治会に福祉委員を導入しようと考えています。自治会の実情にあった福祉委員のあり方を模索していきたいです。（自治会長）
- ・複数の地区を兼務しており、とても一人では見守りできないと悩んでいました。しかし、各地区の福祉委員さんと連携するようになってから随時情報を頂けるので助かります。（民生委員）
- ・情報交換会に参加することで、他地区の民生委員・福祉委員の動きを知ることができ、また課題の共有もできるので、今後の活動に役立っています。（福祉委員）
- ・遠方に住んでいるため、なかなか両親の様子を見にいくことができませんが、福祉委員さんに見守っていただけるので安心です。（高齢者夫婦のみ世帯の娘）
- ・福祉委員は1年任期のため、連携が取れたした頃に次の人と交代してしまうのもったいないです。（1年任期の自治会の民生委員）
- ・“福祉委員”という職務にやりがいを感じていますが、住民の認識も様々で活動しにくいと思うこともあります。地域を越えて情報交換できる場所はありませんか。（福祉委員）

地域除雪支援事業（支援自治会数・率）

1. 事業実施概要

・事業内容

自治会における要援護者世帯への除雪活動を支援するため、傷害補償（保険）への加入と小型除雪機貸出を行っています。

- ・加入自治会：66自治会
- ・要援護者登録世帯数：1,453世帯
- ・除雪支援活動登録者数：1,221名



地区名	加入自治会数	地区名	加入自治会数
長 浜	8	浅 井	7
六 荘	1	び わ	4
南郷里	5	虎 姫	2
神 照	1	湖 北	4
北郷里	0	高 月	11
西黒田	2	木之本	4
神 田	0	余 呉	9
		西浅井	8

2. 事業成果および課題

【成果】

- ・自治会内の高齢者やしょうがい者等の生活の安心・安全確保と向上を図るとともに地域で支えあう体制支援が図られた。
- ・旧長浜での加入が多くみられ、除雪活動を通じた地域住民同士の支えあい活動が図られた。

【課題】

- ・取り組む自治会が市全域に広がるよう各自治会への周知、推進が求められる。

3. 参加者・住民の評価・声

- ・除雪活動の保険加入があるおかげで万が一のけがも保障してもらえるので安心して除雪活動に取り組むことができます。（自治会長）
- ・今年は降雪量が少なかったため、除雪出動がなかったですが、自治会で高齢者やしょうがい者世帯を見守るきっかけになりました。

ふれあい電話（利用者数・実施（相談）件数）

1. 事業実施概要

ひとり暮らし高齢者、日中ひとりになる高齢者、しょうがいのある方などに電話による安否確認や悩みの相談を行っています。

- 安否確認、福祉ニーズの把握（悩み、不安、健康状態、福祉サービス等）
- 日 時 毎週水・木曜日 10:00～11:50 98日間
- 通話者 ボランティア団体・民生委員児童委員協議会 計16団体
- 利用者数 105名 ●実施件数 2,088件 ●実施日数 93日



- ボランティア研修会（電話相談の進め方とストレスマネジメント）

開催日：平成27年9月11日（金） 参加者：17名

講師：吉弘淳一さん（福井県立大学准教授）

- ボランティア交流会（スタンプを使った年賀状づくり）

開催日：平成27年12月16日（水）参加者：18名

- 新規登録者 3名

脱退者 9名（死亡、施設入所、転居による）



2. 事業成果および課題

【成果】

- ・電話相談をとおして、安否確認や悩みごとの相談が気軽にできる環境がとくられている。
- ・電話での対話を通じて、高齢者の不安や孤独感の軽減につながっている。
- ・ふれあい電話ボランティアに対する研修会や交流会を実施することで、コミュニケーション技術の向上やボランティアグループの交流が生まれている。

【課題】

- ・随時新規利用の呼びかけを行うも、登録者数が減少傾向にある。利用者拡大に向けて、新たな対策を考えていく必要がある。
- ・民生委員児童委員や福祉事業者等との連携をさらに強化することにより、新規利用につなげることが求められる。
- ・振り込め詐欺などの影響により、利用者が警戒され、電話がつながりにくくなっている
- ・利用者の高齢化が進み、耳が遠い、足腰が不自由などの身体的な理由によりつながりにくくなっている。

3. 参加者・住民の評価・声

- ・誰とも話さない日が多いので、電話が掛かってくるのが楽しみです。（ふれあい電話利用者）
- ・誰かに気にかけてもらえているのだと思うとうれしいです。（ふれあい電話利用者）
- ・自分の気持ちが相手に通じるよう、まごころ込めて傾聴するようにしています。（ふれあい電話ボランティア）
- ・電話だから相談できることもあります。だから、ふれあい電話は大切な事業だと思います。

(ふれあい電話ボランティア)

- 男性の登録者から、おかずの作り方などを訊ねられる時もあります。気軽に聞いていただき、頼りにされていると思うとやりがいも感じます。(ふれあい電話ボランティア)
- 足腰が悪くサロンに参加しにくい一人暮らしの高齢者に、この事業を案内したところ、「電話が掛かってくるのを心待ちにしています」との嬉しいお声を頂きました。(民生委員)

地域見守り活動推進事業（取組み活動支援自治会数・率、啓発活動・研修会等の開催）

1. 事業実施概要

●取組み活動支援自治会数・率

19自治会

4.4%（19自治会／426自治会）

平成27年度自治会支援 12自治会

支援回数：88回 参加者数：781人

●啓発活動・研修会等の開催

実施回数：34回

参加者数：1,654人

実施地区（率）：10／15地区（66.6%）



2. 事業成果および課題

【成果】

- ・長浜市避難支援見守り支えあい制度の推進に「命のバトン（見守り情報収納ケース）」や「防災・福祉マップ」に活用することで、自治会単位の見守りや支えあいの関係づくりが促進されている。
- ・見守りや支えあいの基盤となる自治会に応じた方法で、たすけあいや支えあいの取り組み方法や活動について話しあう機会ができており、住民の主体的な関わりで、地域の安心感や暮らしやすさを支える仕組みができています。

【課題】

- ・自治会での見守り活動にはかじ取り役である自治会長の意向が大きく反映されるため、丁寧な呼びかけや取り組みの支援が求められる。

3. 参加者・住民の評価・声

- ・「命のバトン（見守り活動情報収納ケース）」や「防災・福祉マップ」は、いざという時だけでなく、日ごろの住民間の支えあいの意識向上にも役に立っています。
（見守り活動に取り組んだ自治会の自治会長）
- ・住民同士の支えあい体制ができたことで、ひとりひとりの負担感なく、見守りや声かけが出来るようになりました。（見守り活動に取り組んだ自治会の民生委員）
- ・これからの地域の暮らしには、近隣の見守りや支えあいが、ますます必要な活動になってくると思います。（見守り活動に取り組んだ自治会の女性役員）
- ・ゲームや体験学習をとおして、近所のおつきあいの大切さなどを学ぶことができました。
（出前講座参加者）

歳末たすけあい運動（実施件数）

1. 事業実施概要

①平成27年度実績

- 一人暮らし高齢者等そうじ支援事業 233件
- 歳末おせち料理配食事業 1121件
- 特別支援学級等学用品支援事業 248名
- 要保護世帯図書カード支援事業 71名
- 福祉施設・団体等歳末行事支援事業 35件
- 小児病棟クリスマス訪問事業 50名
- 緊急食糧給付事業



小児病棟クリスマス訪問

②募金配分実績

年 度	募金額	配分額
平成23年度	7,116,450円	6,961,636円
平成24年度	6,131,693円	6,841,582円
平成25年度	6,044,569円	5,589,825円
平成26年度	5,264,500円	5,748,164円
平成27年度	5,109,758円	4,868,520円

2. 事業成果および課題

【成果】

- ・民生委員児童委員をはじめとした福祉団体・組織との協働・連携の取り組みにより、地域のニーズに応じた支援を展開するとともに、支援を必要とする人たちの孤立感の緩和や地域との交流活動が進められた。

【課題】

- ・事業内容の理解に個人差があり、一部混乱が見受けられた。再度主旨等の周知を徹底する必要がある。

3. 参加者・住民の評価・声

- ・来年の高校受験に向けて、図書カードで参考書を買おうと子どもが意気込んでいました。
（図書カード支援を受けた要保護世帯保護者）
- ・ひとりで過ごす年末は寂しいものですが、今年は民生委員さんが様子見を兼ねておせちを持ってきてくれたのでありがたかったです。（おせち料理配食を受けたひとり暮らし高齢者）
- ・身体が思うように動かず、あまり掃除もできていなかったのですが、支援して頂いたおかげで清々しい気持ちで新年を迎えることができました。（そうじ支援利用のひとり暮らし高齢者）
- ・「サンタさんと病気を治すって約束したから頑張る！」と息子が話しました。入院してから前向きな発言を聞くことが少なかったのが嬉しいです。（小児病棟クリスマス訪問入院患者保護者）

総合相談・よろず相談事業（相談件数）

1. 事業実施概要

●よろず相談	相談日数	専門相談	240日
		一般相談	90日
		合計	330日
	相談件数	専門相談	216件
		一般相談	38件
		合計	254件
●法律相談	相談日数	24日	
	相談件数	113件	



2. 事業成果および課題

【成果】

- ・表面化していない様々な相談に初期段階で対応することにより他機関への連携を促すなど市民の不安や困りごとを解消へ導く手段の一つとなりつつある。

【課題】

- ・市民の認知度をさらに高めるために運営方法や周知・啓発の取り組み方法の再検討が求められる。

3. 参加者・住民の評価・声

- ・どこに相談して良いか分からなかったが親身に相談を聞いてくださり、専門的に対応して下さる相談機関を紹介していただいたので相談に来て良かった。（相談者）
- ・弁護士に相談するのは敷居が高いと思い躊躇っていたが、無料で相談をすることができたことで、問題を早期に解決することができました。（相談者）

権利擁護センター事業（後見サ[®]-トセ[®]-事業）（相談援助件数・権利擁護利用者数、支援回数）

1. 事業実施概要

●地域福祉権利擁護事業

利用者数	認知症高齢者	89	件
	知的しょうがい者	81	件
	精神しょうがい者	41	件
	合計	211	件
相談援助件数	8,765 回		

●成年後見サポートセンター事業

相談援助件数	217	件
申立援助件数	114	件
定期出張相談会	5回	13名
出前啓発講座	9団体	154名
啓発講座	4回	72名



ワンストップ相談会	1回	23組
成年後見受任者情報交換会	1回	16名
サポーター養成講座の開催	全5回	111人
啓発資料作成	ポケットカレンダー	2,000部

●法人後見事業

受任件数	後見	4件
	保佐	3件
	補助	1件

2. 事業成果および課題

【成果】

- ・日常生活での困りごとに対し、各専門機関によるワンストップでの問題解決に向けた相談会が開催できている。
- ・行政や関係機関と連携を深めることを目的とした取り組みがされている。
- ・判断能力の不十分な方の権利を守り、地域で安心して生活が送れるよう基盤整備が進めている。
- ・センターとともに制度の普及・啓発や相談などの活動に従事できる人材の育成を目的とした、サポーター養成講座が開催され地域で制度の適切な利用がすすめられている。
- ・法人後見人受任により、受任者不足の解消が図れており、セーフティネット機能の効果があがっている。

【課題】

- ・サポーター養成講座を修了し、センター登録した11名の受講終了者が、知識を生かし地域で活動できる機会の検討が求められる。

3. 参加者・住民の評価・声

- ・ワンストップの相談会に参加し、今後の方向つけも明確になりました。アドバイスいただいた内容を検討して問題が解決できるようにすすめていきたいです。時間も長い間相談を聞いていただきありがとうございました。(市民)
- ・身内にしょうがい者がいて、今後の事が心配で講座に参加しました。今後の参考にしたいです。(市民)
- ・判断能力の低い方に成年後見人がついてくれるくらいは知っていたが、具体的、詳しい内容は知らなくて今回この講座受けさせていただいて良かったです。(市民)
- ・身近なところに相談できるセンターができたことで、制度を利用することがのぞましい方を適切につなげることができるようになった。(行政)
- ・成年後見受任者情報交換会に参加し、色々の職種の方から色々な経験や体験談を聞くことができ大変有意義な時間になりました。(社会福祉士)

基本目標2 **だしかいなの人づくり**

〔お互いさまの関係づくり〕

福祉教育推進事業（実施件数）

1. 事業実施概要

- 福祉教育助成金 30,000円(長浜養護学校)
- コーディネーター数(小中学校) 30件
- コーディネーター数(学校以外) 48件
- 社協職員派遣数(ボランティアについて・体験学習等) 186時限(回)
- しょうがい当事者派遣時限数(身体・視覚・聴覚しょうがい者) 14時限(回)
- ボランティアグループ派遣時限数(要約筆記・手話・大道芸・手品等) 57時限(回)



2. 事業成果および課題

【成果】

- ・教育機関等に対して福祉教育プログラムを提供することにより、市内40小、中学校の内、市内30校が福祉教育の取り組みを進め、体験をととした学びや福祉に対する理解と関心が高まってきている。
- ・当事者団体に対して、しょうがいがあってもボランティア活動への参加を促す講座を行い、ボランティア活動への参加につながった。
- ・福祉教育を、体験学習だけでなく生涯学習や人権学習としての認識を広めることで取り組みやすい仕組みづくりを行った。
- ・自治会や企業への福祉教育の実施により、地域の課題解決のきっかけになりうるように参加者と共に考え、参加者同士が交流することで理解や関心を深めることにつながる。

【課題】

- ・依頼団体や地域によって、抱える課題は様々、その課題に応じた内容に沿って課題解決につなげられるよう対応していく事が求められている。

3. 参加者・住民の評価・声

- ・教員ではできない専門的なことを、分かりやすく話していただき、私たちが気づきや発見がありました。(小学校教員)
- ・福祉教育の車イス体験は、子どものためにとと思って参加しましたが、実際体験を行うと気づくことがたくさんありました(親子で体験参加)
- ・授業の中にありました「ふくしはふだんのくらしのしあわせ」という言葉は、とてもいい表現です。これからも子どもに伝えていきたいです。(中学校教員)
- ・視覚にしょうがいがあっても、ひとりのできる工夫をされていることが分かった。(小学生)

- ・高齢者疑似体験をして、体が重く大変でも僕たちのために、登下校の見守り隊活動をしてもらっている。これからは進んでお手伝いしたいと思います。(小学生)
- ・普段の暮らしの中で、なかなか考えることの少ない“福祉”について、いろいろな体験を通じて考えるきっかけとなりました。(自治会参加者)

福祉出前講座（講座開催【技能習得】）

1. 事業実施概要

講座名	回数
ここが知りたい「介護保険制度」	1
介護を学ぼう！	2
お口の健康、元気でいきいき生活！	2
レクリエーションで日常の楽しみを	1
介護予防講座～健康は足もとから～	10
介護予防講座～脳活のすすめ～	2
介護予防講座～認知症を知ろう～	5



2. 事業成果および課題

【成果】

- ・地域住民が介護予防に取り組むきっかけとなっている。
- ・地域の福祉課題にあわせたプログラムが再構築され、さらにわかりやすい認知症や転倒予防など身近に感じやすい内容となっている。

【課題】

- ・地域ニーズにあったプログラムの開発が求められる。

3. 参加者・住民の評価・声

- ・新しい介護保険制度について、わかりやすく教えていただき、少し意識が変わりました。
(講座受講者)
- ・認知症や介護などは、他人ごとではなく将来的には自分のことでもあるので、今からできることをするきっかけになりました。(講座受講者)
- ・実際に認知症に家族がなったりしないと実感がわかかなかったが、近所の方が認知症かなと思ったら、その人を地域で支えることができるようこれから考えていきたいです。(認知症講座受講者)

ボランティア養成講座（開催数・受講者数）

1. 事業実施概要

講座数： 10講座

受講生：981名



2. 事業成果および課題

【成果】

- 広く市民に、ボランティア活動に対する理解と関心を高めるために、昨年度要望の多かったボランティア講座の開催が展開されていることで、ボランティアのきっかけづくりにつながっている。
- 養成講座終了後、既存のグループに参加することで、ボランティア活動者が増加し、ボランティア活動の安定し、また活動する場があり活発になってきている。（ハンドマッサージ、傾聴、災害ボランティア養成講座）
- 養成講座終了後、新規ボランティアグループの立ち上げにつながり活動者がいきいきと活動を始められた。（腹話術ボランティア養成講座）
- ボランティア活動者がいきいきと活動されることで、生きがいづくりにつながり、地域のキーパーソンの育成にもつながっている。

【課題】

- 地域の困りごとに関する課題解決につながる講座の開講の必要性がある。

3. 参加者・住民の評価

- 養成講座に参加し、自分にできるか不安でしたが、活動者の先輩に助けをいただき楽しく活動しています。（講座終了後ボランティアグループに加入された受講者）
- 昨年申し込んだ講座が満員で、1年間待って今年講座に参加できました。すごく楽しくて大満足です。（受講者）
- もっと早くボランティア講座に応募し、受講すればよかった。（受講者）
- ボランティア講座ってもっと難しく、敷居が高いと思っていましたが、誰でも参加できると参加してよくわかりました（受講生）
- 今後もステップアップ講座を開催してもらいたいと意欲的（受講生）
- 仕事を退職しチラシを見て参加しました、新しい出会いに感謝しています。（受講生）



広報啓発事業（発行回数）

1. 事業実施概要

- 広報誌の発行（5月、7月、10月、2月）
 - 各42,000部発行（市内全戸配布、県内関係機関、法人会員）
 - 広報誌編集会議の開催 4回
 - 広告協賛企業・団体数 6団体
- ボランティア情報誌「えくすてんど」
 - 発行回数：毎月1回
 - 配布方法：自治会回覧(各公民館配布)
 - 発行部数：52,000部（延べ）
 - ※5月・7月・10月・2月号は社協ながはまに掲載
- ボランティアセンターだより「ランティーちゃん はーい」
 - 発行回数：年3回（4月号・7月号・2月号）
 - *今年度は、臨時で7月号
 - 発行部数：350部
- サロン情報紙
 - 発行回数：年4回（春・夏・秋・冬号）
 - 発行部数：1,100部
- ホームページ運営 <http://www.nagahama-shakyo.or.jp/>
- Facebook 運営



2. 事業成果および課題

【成果】

- ・ Facebook ページ開設により、幅広い世代に地域福祉活動やボランティア活動が周知され、活動への参加者増加につながっている。
- ・ 広報誌からサロン内容の情報を得ている代表者もおり、負担軽減につながっている。
- ・ イベントや事業に対し「広報紙を見て応募した」という参加者が増えており、広報紙を媒体とした情報提供の効果が表れている。

【課題】

- ・ Facebook 記事の更新頻度にムラがある。まったく更新されない期間も目立ってきた。

3. 参加者・住民の評価・声

- ・ 広報誌に載っていたイベント（おもちゃ図書館）に興味があったので、参加しました。
（地域住民）

- どこに相談すればいいのか悩んでいたところ、広報誌でよろず相談の記事を見かけ相談してみました。(地域住民)
- 夏休みのボランティア先を探していたら、広報誌で募集記事を見つけたので応募しました。(学生ボランティア)
- Facebook を見て、福祉のイメージが明るいものになりました。携帯から手軽にアクセスできるので、「こんなイベントがあるんやなあ」と思いながら見えています。(地域住民)
- サロンのネタに困ったら、サロン情報紙をみえています。簡単なレクリエーションが載っているので助かります。(サロン関係者)
- バタバタしているとボランティア保険への加入はつい忘れがちになりますが、ボランティア情報紙でインフォメーションしてくれるので助かります。
- 時期にあった情報も載っているので、読むのが楽しみです。(地域住民)
- 広報誌を読むことが、福祉について学ぶきっかけとなりました。



社会福祉大会（参加者数）

1. 事業実施概要

- ・開催日時：平成27年11月29日（日）12時～16時
- ・参加者数：464名
- ・共催開催：長浜市(地域包括支援課)
長浜市認知症関係者連絡会議



- ・開催内容：●社会福祉功労者表彰
- 福祉標語・福祉の絵表彰と展示
- 福祉講演会
「地域で支える認知症」
～私たちにできること～
講師：松本 一生さん



- しょうがい者作業所物品販売
- 被災地復興支援バザー
- 福祉の相談会(成年後見相談、介護相談、認知症相談・福祉の仕事相談)
- 赤い羽根共同募金啓発活動
- コグニサイズ体験
- 認知症にやさしい福祉用具の展示
- 認知症の取り組み紹介
- ワンコインカフェ



※福祉標語・福祉の絵は、大会後市内の大型量販店などで展示されました

2. 事業成果および課題

【成果】

- ・認知症に対して関心を深め、地域でともに支えあう意識を高める機会を得た。
- ・「私たちにできること」と題し、身近ではある認知症に対して理解し、地域の支えあいについて考える機会がつけられている。

3. 参加者・住民の評価・声

- ・年を重ねるにつれ、認知症は私もどうなるかわからない、今後は自分の問題として、地域のみんなのできる支えあう事を考え、これからの活動に大いに生かしていきたいと感じました。
(参加者：民生委員)
- ・福祉講演会を聞いて勉強になりました、コグニサイズの体操よかった。(参加者)
- ・今年も「福祉の絵」、「あったかハート標語」いいですね、そして親子で掲示されている絵の前で写真を撮られる姿に癒されます。(参加者)

福祉団体活動助成事業（支援事業数）

1. 事業実施概要

市内の福祉団体の活動や取り組みに対する相談をとおして連携や協働の仕組みの構築や継続した事業展開の基盤（活動財源等の確保）を支援し、各福祉団体による主体的な福祉活動を支える。

- ・助成団体 8 団体（14 事業）
- ・支援内容 団体運営支援、交流・研修会支援、学習支援



2. 事業成果および課題

【成果】

- ・福祉団体活動を支援することで、活動の推進と団体運営の充実が図られている。
- ・福祉活動団体と連携、協働することで様々なテーマ型の地域福祉が推進された。

【課題】

- ・支援する団体が固定されており、助成利用に向けて門戸を広くする必要がある。

3. 参加者・住民の評価・声

- ・助成により、事業実施数を増やすことができました。（団体事務局）
- ・助成金を利用し、いつもより少し遠方の研修地に出かけました。毎年とは違う取組みだったので、参加者から喜びの声をいただきました。（団体事務局）
- ・一人暮らしの高齢者を対象に、毎月訪問活動を実施し、農家より提供いただいたもち米を使った山菜おこわやおはぎは大変喜んでもらい、協力者の励みになっています。孤独感・孤立感を和らげ安心して暮らしていただけるよう、お互いに話し合い、より良い活動をめざして取り組んでいます。（団体事務局）
- ・スポーツ大会を実施し高齢者の健康づくり、交流・新睦を図り、併せて交通事故防止の啓発も行いました。
- ・地域の実情や課題の把握に努めた。地域における見守り支援、相談等日ごろの活動の充実を図りました。活動を地域の人々に PR し、活動しやすい環境づくりに努めました。研修等への積極参加を進めました。団体や関係機関、行政との連携に努めました。（団体事務局）
- ・湖北地域2市17ヵ園から保育園児の絵画を展示。数多くお越しくださり、感性豊かな絵を観覧いただきました。（団体事務局）
- ・親子なごやかな雰囲気のもと、納涼と体験学習が出来ました。皿回しにも皆で挑戦しました。（しょうがい団体役員）
- ・ボーリングをする事でスポーツをする喜びを感じられて楽しくプレーされていました。（しょうがい団体役員）

災害支援ネットワーク事業（活動実施回数）

1. 事業実施概要

地域内の様々な組織や団体、福祉施設、企業等との協働による防災・減災活動をテーマとした活動を推進します。地域のネットワークを構築することで、有事だけでなく平時より地域の福祉課題やニーズに対応した福祉活動を推進する基盤づくりを目指します。

- ・災害や復興、災害ボランティアに関する勉強会の開催、被災地支援の活動や災害に対応する取り組みの検討
- ・勉強会の開催 年3回
- ・登録数 20団体 個人 28人



2. 事業成果および課題

【成果】

- ・地域住民の主体的な企画により、研修会が継続して運営されている。
- ・災害支援活動をきっかけとして、住民や関係機関等の地域福祉推進に対する関心が向上している。

3. 参加者・住民の評価

- ・災害から地域を守るのは、結局地域住民。そのためには、自分たちが地域を守るのだという意識が重要だと改めて感じた。（自治会長）
- ・連絡会に参加し、防災という視点から改めて地域を見つめなおす必要性を感じた。有事の際、地域で活用できる資源の見直しを図りたい。（自治会長）
- ・長浜市の防災・減災活動状況を、詳しく知りたい。（地域住民）
- ・研修会で、「役場は“何もしてくれない”のではなく、“何もできない”のだ」という言葉を聞き、各々で行う防災対策の必要性を感じた。（地域住民）
- ・連絡会に参加したことで、福祉施設入所者の存在を地域住民に周知する良い機会となった。（福祉施設職員）
- ・有事の際に企業に求められる役割を、住民の立場に立って考えていかなければならないと思う。（登録企業代表）

ボランティア団体支援（登録支援団体数）

1. 事業実施概要

- ・支援団体数：242 団体
- ・長浜市社会福祉協議会ボランティア団体助成金 94団体 3,202,845円

2. 事業成果および課題

【成果】

- ・ボランティアセンターから発行している「ボランティア活動団体一覧」をとおして、ボランティアに活動の場を提供することにつながっている。また、活動希望者を団体に紹介することもできている。
- ・講座終了後、ボランティアグループの立ち上げ支援を行い活動に関しても継続的に支援を行っている。
- ・終了生やボランティア活動希望者を、既存のボランティア活動団体へつなぐことで、ボランティアグループの活性化につながっている。
- ・社協のボランティア団体助成や他の助成の紹介を行うことで資金面等での活動の安定が図られている。
- ・情報紙「えくすてんど」や窓口で、ボランティア活動保険や行事用保険を推進することで、ボランティア登録団体(者)に安心して活動を行ってもらえる環境が整っている。
- ・情報紙「えくすてんど」によって団体に、活動保険や活動紹介、調整、助成金等の情報を掲載することでボランティアセンターに相談があり未登録の各団体とつながり推進された。

【課題】

- ・ボランティアセンターに登録していない団体も多くあるため、今後も登録に向けたアプローチを行い、市民活動団体の連携や協働体制の基盤づくりを推進することが求められている。

3. 参加者・住民の評価・声

- ・今までボランティア活動をしていても、ボランティア活動保険を知らなかったけど、ボランティア保険や、助成に対して相談にのってもらって助かります。（ボランティア団体長）
- ・情報紙「えくすてんど」を見て、私たちの活動は登録できるのか相談にのってもらい、気軽に対応してもらいうれしかったです。（登録団体）
- ・グループの活動や運営、ちょっとした困り事についていつでも相談にのってもらえるのでうれしいです。（ボランティア団体長）
- ・登録して、活動場所を紹介していただきうれしかったです。（ボランティア団体長）



ボランティア連絡協議会支援（事業開催回数）

1. 事業実施概要

●ボランティア連絡協議会支援

- ・長浜市長浜ボランティア連絡協議会【会議 7・事業 4】
- ・長浜市浅井ボランティア連絡協議会【会議 9・事業 8】
- ・びわボランティア連絡協議会【会議 5・事業 5】
- ・虎姫ボランティア連絡協議会【会議 5・事業 2】
- ・湖北ボランティア連絡協議会【会議 13・事業 8】
- ・高月ボランティア連絡協議会【会議 4・事業 5】
- ・木之本ボランティア連絡協議会【会議 14・事業 7】
- ・余呉ボランティア連絡協議会【会議 3・事業 4】
- ・西浅井ボランティア連絡協議会【会議 1・事業 2】

●ボランティア連絡協議会代表者会の開催

①日時：6月22日(月) 10時から14時00分

場所：山門水源の森

議題：山門水源の森でのボランティア活動
社会福祉大会での協力事業について

②日時：12月17日(木) 15時から17時00分

場所：浅井センター

議題：意見交換会

●ボランティア連絡協議会協同事業

日時：11月29日(日) 11時から16時30分

場所：長浜文化芸術会館



2. 事業成果および課題

【成果】

- ・今期は代表者会議から、山門水源の森のボランティア活動に発展し、お互いの活動を知り、連絡協議会の代表者会の「和」ができ関係づくりが推進された。
- ・連絡協議会間の連携・協働体制を推進することで各地域のボランティア連絡協議会活動の活性化につながっている。
- ・復興バザーにおいても、回を重ねることで、お互い相談しあえる関係ができ、自ら学びつながろうと交流会に発展し、連絡協議会の活動を活性化している。

3. 参加者・住民の評価・声

- ・水源の森のボランティア活動をとおして、連絡協議会会長と親睦を深める事ができ参加してよかった、また企画してほしい(V 連会長)
- ・今年も復興バザーできて良かった、回数を重ねるとお互い気心が分かって楽しい、来年も一緒に復興バザーがあれば参加したい。(社会福祉大会復興バザーでのボランティア活動者)
- ・代表者会等において、他の地区のボランティア連絡協議会の情報を知ることができ、自分の連絡協議会に活かされているのでこれからも参加したい(V 連会長)

長浜市福祉バス（福祉バス貸出回数）

1. 事業実施概要

市内で活動する高齢者、心身しょうがい者（児）、母子家庭、地区社協、ボランティア団体等の福祉団体の様々な福祉事業（大会参加、研修事業、交流事業、ボランティア活動等）の実施や参加を支援するため、長浜市福祉バスを運行します。



●貸出件数 83件

（内訳：大型バス46台 リフト付きバス2台 中型・小型バス 35台）

●利用者数 2,281人

2. 事業成果および課題

【成果】

- 福祉団体等が福祉バスを利用することで、幅広い福祉活動・交流事業の取り組みが進められ、福祉団体活動等の活性化が促進されている。

3. 参加者・住民の評価・声

- 地区社協の研修会に利用させてもらい、取り組みの幅が広がった。（地区社協役員）
- 母子家庭で夏休みでもなかなか旅行や外出の機会が取れない家庭が多い。福祉バスで県外の日旅行が実施でき、親子のふれあいや思い出づくりになりましたと思います。（母子当事者団体役員）
- 急な研修で福祉バスを利用することになったが、迅速に対応してもらい無事に研修に行くことができた。（団体役員）

地区社協研修事業（研修会等開催回数）

1. 事業実施概要

●主な地区社協研修事業

研修会：福祉委員研修会、福祉研修会、先進地研修会
防災研修会等

講演会：人権・福祉講演会、介護予防講演会等

開催回数：35回

参加者数：1,482人



2. 事業成果および課題

【成果】

- 地域にあった課題解決や活動促進を目的とした機会が推進されている。
- 各地区において地域実情に応じた、福祉人材の育成が促進されている。

3. 参加者・住民の評価・声

- 先進事例の紹介により自治会の福祉体制構築を具体的に想像することができました。

(地域の見守り活動に関する研修会参加者)

- ・身近な人達と地域の状況を話しあった意見を、自治会活動などに反映させていきたいです。

(災害講座に参加した自治会長)

福祉委員推進事業（研修会等開催回数）

1. 事業実施概要

福祉委員研修会等開催

開催回数：12回（自治会、団体、地区）

参加者数：397名



2. 事業成果および課題

【成果】

- ・身近な課題でわかりやすい研修プログラムを組むことで、未設置地域や新規活動者への負担軽減や地域住民への事業に対する理解・関心の向上が図られ、福祉委員の設置に向けた活動の活性化につながっている。

【課題】

- ・福祉委員未設置地域に対する研修会参加の働きかけや、福祉委員設置地区での活動のフォローアップの検討が必要である。

3. 参加者・住民の評価・声

- ・研修会や情報交換会に参加することで、他地区の福祉委員活動を知ることができ、勉強になりました。（福祉委員）
- ・福祉委員の活動について知りたいと思い、研修会に参加しました。自分の自治会で福祉委員の立ち上げを検討するきっかけになりました。（自治会長）
- ・初めて福祉委員として活動するのですが、不安でいっぱいなので研修会に参加しました。すでに先生の講義や先輩福祉委員の話を聞いて、気楽に考えることができるようになり、ほっとしています。（福祉委員）
- ・他の地域の福祉委員はどのような活動を展開されているのか知りたいです。（福祉委員）

小地域サロン支援事業（開催回数）

1. 事業実施概要

- ・サロンの総数：175自治会
- ・サロン開催年間：13回(平均)
- ・開催回数：1年目 年5回 2年目から年10回以上
- ・助成金：1年目から3年目 3万円
 4年目以降 1万円



・10回開催の理由：高齢者には介護予防、子どもには育成の場、地域にはつながりの場と多面性を持っている。回数を重ねないと開催される目的を達成できないため、年10回の開催目標にて取り組んでいる。

- ・貸出備品整備：25年度購入 ポケットボール 2台
室内ゴルフ 2台
26年度購入 コミュニケーションマーじゃん 3台
27年度購入 テーブルゲーム(各種)
- ・情報紙の発行：季節のサロンのヒントを掲載



2. 事業成果および課題

【成果】

- ・各地区社協や自治会において、「サロン・見守りについて」出前講座を行ったことで、サロンの立ち上げ等について問い合わせや相談が多く寄せられた。
- ・昨年度、男性参加者を増やす事を目的に、交流会でコミュニケーションマーじゃんの紹介をおこない、今期は、男性参加者が増加したことで、サロン活動の活性化・充実が促進されている。
- ・交流会で認知予防とされる体操等(コグニサイズ)を行ったことで、スタッフも参加者も楽しんで取り組むサロン活動の活性化・充実につながった。
- ・毎年サロン交流会を行っているため、「今年はいつ頃、どんな事をしますか」と問い合わせが増えてきており、情報交換の場としての認知が進んできている。
- ・サロンボランティアの声に寄り添う支援により、気軽に相談できる関係づくりが構築されてきた。
- ・活動のマナー化や担い手の高齢化により、サロン運営が難しくなっている地域もあるため、気軽に簡単に楽しめるレクリエーションや貸出用具を購入し充実を図った。

【課題】

- ・気軽に遊べるゲームや、持ち運びの軽いゲームを紹介してほしい。

3. 参加者・住民の評価・声

- ・「毎回サロンで何をしようか？」と悩みますが、情報紙をみてヒントをもらっています。
(サロンボランティア)
- ・男性の方はなかなか参加してもらえなかったが、コミュニケーションマーじゃんを行い男性の方がサロンに参加してもらえた。(サロンボランティア)
- ・サロンで出会った方と町中で出会っても、声を掛け合う関係になれ、サロンに参加してよかった。(サロン参加者)
- ・自治会で出前講座(サロンについて)後、「サロンをはじめよう」と、声が出てサロンをはじめめるきっかけになった。(自治会長)
- ・簡単なゲームを紹介してもうと楽しくサロンができてうれしい(サロンスタッフ)

しょうがい（児）者交流事業（ボランティア活動者数【延べ人数】）

1. 事業実施概要

さまざまなイベントを通して、しょうがい（児）者に関する理解や関心を深め、ボランティア活動としての担い手を育成・支援しています。

●主な事業

- ・療育レクリエーション（8名）
- ・しょうがい児者保護者交流会サマーハウス（95名）
- ・しょうがい者余暇支援事業料理サロン（36名）

2. 事業成果および課題

【成果】

- ・ボランティア活動をとおして、しょうがいに関する理解と関心を深めることができています。
- ・地域住民がボランティアとして参加することで、しょうがい児者やその家族と地域を結びつけることができています。
- ・ボランティア養成講座を行うことで、住民に対し関わりを持つきっかけをつくるとともに、新規ボランティアの獲得を推進している。

3. 参加者・住民の評価・声

- ・療育レクリエーションに参加し多くのしょうがい児者の方と交流ができ楽しかった。来年も参加したいと思います。（療育レクリエーションボランティア）
- ・参加者さんと一緒に料理することを通して、一緒に成長できているような気がします。参加するたびに新たな気づきがあり、新鮮です。（料理サロンボランティア）
- ・ボランティアとして参加したことで、特別視するのではなくひとりの子どもとして接して欲しいというご両親の思いに気づけました。（サマーハウス学生ボランティア）
- ・最初はどの接したらいいのかわからず身構えたが、子どもたちのあどけない笑顔で緊張も溶けていきました。今年は学校の宿題として参加したのですが、来年は自主的に参加するつもりです。（サマーハウス学生ボランティア）
- ・子どもたちの成長が楽しみで、毎年参加しています！（サマーハウスボランティア）
- ・ボランティア活動に興味はありましたが、知識も関わりもなく不安だったので、しょうがいサポーター養成講座を受講しました。（ボランティア養成講座受講生）

子育て支援事業【おもちゃ図書館】(ボランティア活動者数【延べ人数】)

1. 事業実施概要

- ・実施回数：78回
(虎 姫会場) 毎月第2、3水曜日
9時30分～11時30分
(木之本会場) 毎週火曜日
9時30分～11時30分
- ・延べボランティア数：115名
- ・活動内容：子どもの見守り、
レクリエーション補助、
調理活動、保護者との交流など



2. 事業成果および課題

【成果】

- ・定期的にイベントを開催することにより、ボランティア活動者の継続した活動基盤が整備されている。
- ・民生委員児童委員、地区社協、福祉団体等との協働による、絵本の読み聞かせや子育て相談活動が展開されることで、地域ぐるみの子育て支援活動が推進されている。
- ・企画段階からボランティア活動者に加わっていただくことで、様々な視点から事業を企画することができる。

【課題】

- ・関わっているボランティアが限られてきており、新たな多くの子育てボランティア活動者に参画いただけるよう周知、支援が求められる。

3. 参加者・住民の評価・声

- ・参加者の笑顔が活動の励みになっています。(ボランティア)
- ・子どもやお母さんとふれあうことで、最近の子どもの状況を知り、活動の幅が広がりました。(更生保護女性会)
- ・子どもが好きなので、関わる場があり嬉しいです。(ボランティア)
- ・孫の世話から手が離れたので、このボランティアを始めました。子どもたちの成長が楽しみです。(ボランティア)

中山間地域支援事業【ワークキャンプ】(ボランティア活動者数【延べ人数】)

1. 事業実施概要

実施場所：長浜市余呉町 摺墨自治会、中河内自治会、菅並自治会

●第1回ワークキャンプ(夏季)

実施期間：9月8日(火)～11日(金) 3泊4日

実施内容：側溝の土砂上げ、水路の土砂上げ

参加者：市内外ボランティア 延66名

●第2回ワークキャンプ(冬季)

実施期間：2月8日(月)～11日(木) 3泊4日

参加者：市内外ボランティア 延100名

実施内容：高齢者宅の除雪、側溝の土砂上げ



2. 事業成果および課題

【成果】

- 学生ボランティアが年々減少傾向にある中、中山間地域支援事業(ワークキャンプ)の学習会を開催し、改めて魅力を学生に伝えたことで、大学生ボランティアの6名の増加につながった。
- 中山間地域での困りごとを、地元住民と一緒に取り組み、知ることで支援する側も地域に若年層ボランティアが参入していかなければという考えを持ってもらえた。

【課題】

- 1回の参加で終わらずに、継続的に参加してもらえるように市内外のボランティアに呼びかけ、周知を行う必要がある。

3. 参加者・住民の評価・声

- 初めてワークキャンプに参加して、また来年もぜひ参加したいと思いました。(学生ボランティア)
- いろんな人とふれあい、おしゃべりを通して普段しないことが経験できました。ボランティア活動をして感謝してもらえたことで、参加して本当によかったと思いました。(学生ボランティア)

福祉教育推進事業（受講者数）

1. 事業実施概要

小中学校、企業、自治会等、地域において地域の担い手を育成する。

ボランティアに対する理解と関心を深めます。

受講者数 6,954人

社協職員講師受講者数 4,546人

しょうがい当事者講師受講者数 789人

手話、要約筆記等ボランティア講師受講者数 1,619人



2. 事業成果および課題

【成果】

- ・福祉教育プログラムをとおして、地域住民の福祉に対する関心を深め、地域の福祉を担う活動者の育成につながっている。
- ・学校からも年度当初に相談や依頼があり、福祉教育の理解が推進されてきている。
- ・自治会や各種団体等の依頼もあり、体験を通して福祉について考える機会になり、「共に学び共に生きる」意識の向上につながった。

【課題】

- ・住民の方が、出前福祉教育を取り組んでもらえる啓発活動を行う必要があると考える。

3. 参加者・住民の評価・声

- ・当事者の方のお話を直接お聞きして、しょうがいがあっても様々な工夫で自立した生活が営めることを知り感銘しました。子ども達も何かを感じてくれたと思います。

（4年担当教諭）

- ・手話を教えてもらい、耳の不自由な人の生活を知る事ができました。困る事も多いと聞き、聴覚しょうがい者にやさしくしたい。（手話を習った4年生）
- ・知らない事より、少しでも知っている。この知る機会を持てたことは良かった。今後もこのような機会があれば参加したい。（自治会の参加者）
- ・受講後、しょうがい者だけでなく誰に対しても、「目配り、気配り」が必要なことだと気付いた（自治会の参加者）

ボランティアコーディネート業務（件数）

1. 事業実施概要

ボランティア活動をしたい人と、ボランティア活動をしてほしい人のマッチング（調整）を行い、ボランティア派遣等を行う。また、安心してボランティア活動取り組めるようボランティア保険の推進行う。

- ボランティア相談件数：376件
※内ニーズ調整件数 268件
- ボランティア保険取扱数：4,028人



2. 事業成果および課題

【成果】

- 毎月発行している「えくすてんど」を見て窓口に直接来所され、また電話で問い合わせがあり、相談につながっている。
- ボランティア活動を推進する環境整備（マッチング機能・保険加入によるリスク管理等の推進）の取り組みが進められている。
- ボランティアをしてほしい人、ボランティアしたい人の相談だけでなく、現在活動されているボランティア団体のコーディネートを行うことで、やりがいの持てる活動につなげると共に活動の輪が広がる環境整備が推進できた。
- 登録ボランティア団体から相談もあり、同じ目的を持つ活動団体を紹介し交流することで活動の輪が広がった団体もある。
- 個々のニーズに対して、ボランティア活動が社会参加のひとつととらえ、市民がボランティア活動に参加できるよう情報発信を行っている。
- いつでも相談のできる体制を整えていることで、住民に待たせない対応ができています。

【課題】

- 個人のニーズに対応できるボランティア活動者の育成が求められている。

3. 参加者・住民の評価・声

- いつも施設行事を楽しく盛り上げていただけるボランティアさんを紹介していただき助かっています。（施設職員）
- 長浜市内全体を幅広く把握しているボランティアセンターから、同じ活動内容の団体を紹介してもらい、情報交換ができた。（ボランティア団体長）
- 昨年度に役員さんから、ボランティアセンターで夏祭りのイベント企画を相談したと聞き、今年も頼みます。（自治会長）

基本目標3 **ねんごろな^{ねだ}根太づくり**
〔支えあって、安心して暮らせるしくみづくり〕

福祉・生活相談窓口の運営（設置数【福祉生活相談・よろず相談】）

1. 事業実施概要

生活相談：2 か所（長浜・木之本）

よろず相談：3 か所（長浜・湖北・木之本）

2. 事業成果および課題

【成果】

- ・相談窓口を集約することにより、専門職の適正配置を含めた体制整備ができており、効果的な運営ができています。



3. 参加者・住民の評価・声

- ・無料で気軽に相談に乗っていただけたのでとてもありがたかったです。（よろず相談利用者）

生活相談員の設置（設置数）

1. 事業実施概要

相談員数 8名

2. 事業成果および課題

【成果】

- ・生活相談は、様々な制度の紹介や手続き支援等へつなぐ役割が出来る。
- ・生活相談員の増加により、幅広い相談内容に対処できている。

【課題】

- ・相談内容が多岐にわたることがあり、様々な研修等に参加して相談員の資質向上を図る必要がある。



3. 参加者・住民の評価・声

- ・様々な相談窓口が連携することにより、課題解決に向けた相談活動となっている。（関係機関）

地域見守り活動推進事業（個別支援計画策定件数）

1. 事業実施概要

- ・長浜市避難支援・見守り支えあい制度
個別支援計画策定率 94.8%



2. 事業成果および課題

【成果】

- ・自治会役員、民生委員児童委員など、地域内の要援護者と支援者をつなぐ地域リーダー等に対して、重点的に制度説明や活動紹介を行い、制度登録者数の増加や個別支援計画の策定率の向上だけでなく、支えあい活動の実践に向けた働きかけができています。
- ・制度登録と併せて、「命のバトン」や「防災・福祉マップ」など、防災や地域の見守り活動に対する住民意識の向上が図られている。

【課題】

- ・登録者数が減少傾向にあり、地域間のバラつきもあるため市制度と地域住民の活動の連携体制の構築が求められる。

3. 参加者・住民の評価・声

- ・登録が進むことで、自治会内でいざという時の支援の役割分担を進めることができました。
（自治会長）
- ・「日頃元気になっているサイン」を学び、気を遣わない見守り活動に活かしています。
（民生委員児童委員）
- ・地域の中で民生委員さんや自治会の皆さんに支えていただける安心感が持っています。
（制度登録要援護者）

地域と介護の連携会議（開催回数）

1. 事業実施概要

地域福祉担当者と介護事業担当者の連携および協働により定期的に連絡調整会議を開催し、それぞれの立場から把握する地域課題および生活課題等について課題分析や共有化を図り、地域ニーズに応じた福祉サービスの提案および調整を図る会議を開催。

- ・開催回数 19回

2. 事業成果および課題

【成果】

- ・潜在化しがちな個別課題や地域課題を看過せず、気づきを共有できる取り組みの仕組みが検討されている。
- ・生活・地域課題に対し、専門職の連携によって解決の方向性を検討できる体制が構築されている。
- ・地域福祉担当者と介護事業担当者の連携により、地域ニーズに応じた新たな福祉サービスの提案や活動が出来ている。
- ・地域課題や生活課題を抱える人を支援する多職種ネットワーク化が整備されている。

3. 参加者・住民の評価・声

- ・職務中の「気づき」を放っておくことなくつなげることができている（デイサービス職員）
- ・ひとりの専門職だけでは解決が難しいことも、複数の専門職がチームとなって取り組むことで解決の糸口が見えてきました（介護事業課）
- ・日ごろの業務で気になることに気づいたとき、情報共有できる仕組みができたので、連携を図ることができます。（地域福祉担当者）

地区別地域福祉推進事業【地域ケア会議】（地区活動計画策定数・率）

1. 事業実施概要

平成27年度計画策定地区 15地区/15地区（100%）※予定



2. 事業成果および課題

【成果】

- 全地区において地区版の地域福祉活動計画の策定が進められ、これからの地域福祉の方向性や活動指針が地域内で共有されている。
- 身近な地域の福祉課題やニーズを住民が主体的に話し合うことで、解決に向けた取り組みの糸口が見えてきている。

【課題】

- 地区版計画の進行管理や新たな活動の企画・実施を展開していくための仕組みづくりが求められている。

3. 参加者・住民の評価・声

- 日ごろの活動も「なんとなくやる」のではなく、目標と目的をもって取り組む活動として考えることが、やる気につながってきます。（地区社協役員）
- できることから、無理をせず、一步一步着実に目的地に向かってみんなで進んでいきたいです。（福祉団体代表者）
- 計画を無駄にすることなく、しっかりと振り返りなどの進捗管理を行っていきたい。（地域づくり協議会役員）

災害ボランティアセンターの機能強化（ボランティア数・訓練回数）

1. 事業実施概要

災害の時に協力していただける方の養成

災害について理解を深める

登録数 26年度：44名(新規7名)

27年度：61(新規17名)

講座 災害ボランティアセンター養成

講座回数：1講座（3日間）

出前講座 「災害ボランティアセンターの役割」6団体

避難訓練 平成27年9月6日

回数：1回

場所：長浜小学校

研修 ①避難者運営ゲームHUGの研修

平成28年2月1日

②滋賀県災害時要援護者支援ネットワーク

平成28年3月17日

常総市水害ボランティア活動

9月28日～30日

災害ボランティア登録者4名参加

（職員1名含）



2. 事業成果および課題

【成果】

- ・出前講座等において、「災害ボランティアセンターの役割」等を広く伝えることで、災害ボランティアセンターの役割やキーパーソンの必要性等、災害に対する備えや復興支援活動に対する地域住民の意識向上が図られた。
- ・ボランティアスタッフを養成していく取り組みは、災害ボランティアセンターの人材育成と機能強化や災害に対する住民意識の啓発につながる活動となっている。
- ・災害ボランティアセンタースタッフによる常総市の災害ボランティア活動をとおして、センターの運営や役割、必要性を体験から学ぶことができた。
- ・災害ボランティアセンタースタッフで避難者運営ゲームHUGを時間をかけて実施し、幾通りもの避難所の運営を考える機会を持ち、理想の避難所を考える研修を行った。
- ・県の開催される研修等に災害ボランティアセンタースタッフで参加し災害や防災に対して意識の向上を図った。

【課題】

- ・今後更なる機能強化および活動の充実を図るためには、ボランティア登録者の専門的技術習得プログラム等の企画・実施検討が求められる。

3. 参加者・住民の評価・声

- よくテレビで災害ボランティアセンターの映像が映るが、今日の訓練で災害ボランティアセンターの役割が良くわかった。(総合防災訓練に参加の登録ボランティアスタッフ)
- 来年はボランティア登録して災害ボランティアセンタースタッフとして訓練に参加したい。(総合防災訓練に参加の地域住民)
- 災害は怖いけど予防はできん、発生した時のボランティアさんの役割は大きいと改めて思いました。(総合防災訓練に参加の地域住民)
- 避難者運営ゲームHUGを何回行っても、答はないしわからん、実際にはどうなるのかな、心配です。(研修参加者)
- 滋賀県災害時要援護者支援ネットワークに参加して、県の危機管理センターの見学もでき、いろんなことが学べる機会を持てた。(研修参加者)

地域福祉コーディネーターの配置（設置数・研修会数）

1. 事業実施概要

- 設置地区 市内15地区
- 設置人数 各地区2名
- 目的 地域内の地域福祉活動を推進するため、地域福祉コーディネーターを配置し、各地区の地域福祉を推進しています。

地区	支援状況
長 浜	<ul style="list-style-type: none"> • 地区社協事業および事務局支援【54回】 • 福祉活動団体（民生委員児童委員、連合自治会等）事業支援【4回】 • 自治会研修会支援【5回】 • 見守り活動支援【42回】 • 長浜地区地域福祉活動計画策定支援【6回】
六 荘	<ul style="list-style-type: none"> • 地区社協事業支援【38回】 • 地区の福祉に関わるイベント支援【6回】 • 小地域福祉活動支援（サロン立上支援、見守り活動支援）【14回】
南郷里	<ul style="list-style-type: none"> • 地区社協事業支援【14回】 • 南郷里地区福祉活動計画策定支援【5回】
神 照	<ul style="list-style-type: none"> • 地区社協事業支援【14回】 • 福祉活動団体（民生委員児童委員、地域づくり協議会等）【5回】 • 神照地区別福祉活動計画策定支援【3回】
北郷里	<ul style="list-style-type: none"> • 地区社協事業支援、福祉活動団体（民生委員児童委員、地域づくり協議会等）【10回】 • 北郷里地区別福祉活動計画策定支援【2回】
西黒田	<ul style="list-style-type: none"> • 地区社協事業支援【4回】 • 福祉活動団体（地域づくり協議会、NPO法人等）事業支援【1回】 • 西黒田地区別福祉活動計画策定支援【1回】

神 田	<ul style="list-style-type: none"> ・地区社協事業支援【2回】 ・福祉団体活動支援【10回】 ・神田地区別福祉活動計画策定支援【6回】
浅 井	<ul style="list-style-type: none"> ・地区社協（福祉の会）事業および事務局支援【113回】 ・福祉活動団体（民生委員児童委員、赤十字奉仕団、ボランティア連協等）事業支援【49回】 ・自治会研修・交流会支援【1回】 ・小地域福祉活動支援（サロン活動支援、見守り活動支援）【14回】 ・浅井地区別福祉活動計画策定支援【15回】
び わ	<ul style="list-style-type: none"> ・地区社協事業および事務局支援【33回】 ・福祉活動団体活動支援【12回】 ・福祉懇談会の開催【1回】 ・小地域福祉活動支援（サロン活動支援、見守り活動支援）【23回】
虎 姫	<ul style="list-style-type: none"> ・地区社協（福祉の会）事業および事務局支援【76回】 ・福祉活動団体（民生委員児童委員、赤十字奉仕団、ボランティア連協、商工会等）事業支援【13回】 ・福祉懇談会の開催【1回】
湖 北	<ul style="list-style-type: none"> ・地区社協（福祉の会）事業および事務局支援【69回】 ・福祉活動団体（民生委員児童委員、赤十字奉仕団、ボランティア連協等）事業支援【27回】 ・湖北地区別福祉活動計画策定支援【6回】
高 月	<ul style="list-style-type: none"> ・地区社協事業および事務局支援【99回】 ・福祉活動団体（民生委員児童委員、赤十字奉仕団、ボランティア連協等）事業支援【12回】 ・高月地区別福祉活動計画策定支援【10回】
木之本	<ul style="list-style-type: none"> ・地区社協（福祉の会）事業および事務局支援【53回】 ・福祉活動団体（民生委員児童委員、赤十字奉仕団、ボランティア連協等）事業支援【19回】 ・木之本地区別福祉活動計画策定支援【9回】
余 呉	<ul style="list-style-type: none"> ・地区社協（福祉の会）事業および事務局支援【41回】 ・福祉団体（民生委員児童委員、ボランティア連協等）事業支援【9回】 ・余呉地区別福祉活動計画策定支援【12回】
西浅井	<ul style="list-style-type: none"> ・地区社協（福祉の会）事業および事務局支援【56回】 ・福祉団体（民生委員児童委員、老人クラブ連合会、赤十字奉仕団、ボランティア連協等）事業支援【18回】 ・自治会研修、交流会支援【1回】 ・西浅井地区別福祉活動計画策定支援【5回】

2. 事業成果および課題

【成果】

- 地区内の様々な地域福祉活動に対し、面的な支援や関わりに取り組むことができています。
- 福祉活動団体のつながりや連携を取ることができています。

3. 参加者・住民の評価・声

- 各団体とつながりをつくってくれるので、地域内やりとりがスムーズになりました。
(福祉活動団体代表者)